

第2回社会福祉専門分科会における意見

(1) 施設存続を求める意見

- これまで、所属団体の研修会後の懇親や町内会での宿泊旅行などで利用しており、楽しみがあった。アンケートの結果では、年代が高い方から引き続き施設を継続してもらいたいという意見があるが、利用者として同じ意見である。
- 洗心荘は、老人クラブや町内会が活用している。高齢者には低料金で楽しめる場所が必要なため、存続してほしい。
- 洗心荘を積極的に利用している町内会にとって、同施設は、利用料金が安い上、温泉入浴や周辺にある奥入瀬溪流の散策など、様々な楽しみ方を味わえる施設であり無くなっては困ると考えている。一方で、施設を維持していくために財政的な負担がかかっていると感じている方も多くいる。

第2回社会福祉専門分科会における意見

(2) 見直しを求める意見

- 若い世代は、インターネット等で検索し、自分のニーズに合った宿泊施設を選択して利用しているため、行政が保養施設を運営する意義が薄れてきていると感じている。
- 洗心荘は大事な資産であることに変わりはないが、施設が老朽化し継続的に維持経費が見込まれる現状等を踏まえれば、今までのような形での継続は不可能と思われる。総体的に考えれば、継続とは違う方向へ検討してもいいのではないか。
- 保養所の継続に向けて何か良い手があればと思うが、費用対効果の面で難しいものと考えている。
- 他の自治体が実施している、民間施設と連携した保養施設の提供も視野に入れ、新しい保養事業の形を考えていく時期に入っているのではないか。保養事業に対するニーズが高い高齢者に配慮しながら検討する必要がある。
- アンケート調査では、利用者を中心に、老朽化した施設の大幅なりニューアルを求める意見が出ているが、多額のコストがかかり、その負担は今の20代以降の若者へ持ち越されることになる。コスト面と便益、世代間の公平性を考えながら検討をしていかなければならない。

第2回社会福祉専門分科会における意見

(3) その他の意見

- アンケート調査では、利用したことがある方は施設維持を希望し、利用したことがない方は有効活用や改修を望む傾向が見られた。そのため、洗心荘を利用したことがない方に対し、施設を利用してもらえるような機会の提供や、施設の魅力向上につながるものを検討してみてはどうか。
- 市の財源を投入し続けるのではなく、保養施設に付加価値を付け、収入を生む仕組みを考えてはどうか。
- 車いす利用者や高齢者、若者など、誰もが利用できるような施設にしていきたい。また、幅広い年代が利用できるような様々な企画を催し、運営していきたい。